

本資料のうち、枠囲みの内容は、
営業秘密又は防護上の観点から
公開できません。

東海第二発電所 工事計画審査資料	
資料番号	工認-409 改1
提出年月日	平成30年8月10日

V-2-5-5-2-1 低圧炉心スプレイ系ポンプの耐震性についての計算書

目次

1.	概要	1
2.	一般事項	1
2.1	構造計画	1
3.	固有値解析及び構造強度評価	3
3.1	固有値解析及び構造強度評価方法	3
3.2	荷重の組合せ及び許容応力	3
3.3	解析モデル及び諸元	9
3.4	固有周期	9
3.5	設計用地震力	10
4.	機能維持評価	11
4.1	動的機能維持評価方法	11
5.	評価結果	12
5.1	設計基準対象施設としての評価結果	12
5.2	重大事故等対処設備としての評価結果	12

1. 概要

本計算書は、「V-2-1-9 機能維持の検討方針」にて設定している構造強度及び機能維持の設計方針に基づき、低圧炉心スプレイ系ポンプが設計用地震力に対して十分な構造強度及び動的機能を有していることを説明するものである。

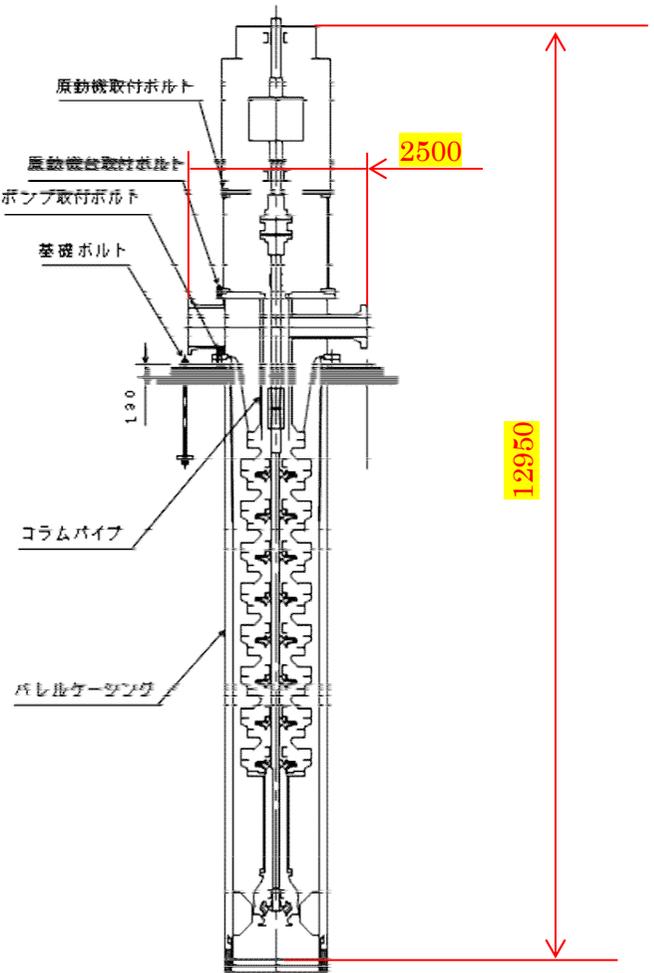
低圧炉心スプレイ系ポンプは、設計基準対象施設においてはSクラス施設に、重大事故等対処設備においては常設耐震重要重大事故防止設備に分類される。以下、**設計基準対象施設及び重大事故等対処設備としての**構造強度評価及び動的機能維持評価を示す。

2. 一般事項

2.1 構造計画

低圧炉心スプレイ系ポンプの構造計画を表 2-1 に示す。

表 2-1 構造計画

計画の概要		概略構造図
基礎・支持構造	主体構造	
<p>ポンプはポンプベースに固定され、ポンプベースは基礎ボルトで基礎に据え付ける。</p>	<p>ピットバレル形 たて軸ポンプ</p>	 <p>(単位: mm)</p>

3. 固有値解析及び構造強度評価

3.1 固有値解析及び構造強度評価方法

低圧炉心スプレイ系ポンプの構造はたて軸ポンプであるため、構造強度評価は、「V-2-1-13-5 たて軸ポンプの耐震性についての計算書作成の基本方針」に記載の耐震計算方法に基づき評価する。

3.2 荷重の組合せ及び許容応力

3.2.1 荷重の組合せ及び許容応力状態

低圧炉心スプレイ系ポンプの荷重の組合せ及び許容応力状態のうち設計基準対象施設の評価に用いるものを表 3-1 に、重大事故等対処設備の評価に用いるものを表 3-2 に示す。

3.2.2 許容応力

低圧炉心スプレイ系ポンプの許容応力を表 3-3 及び表 3-4 に示す。

3.2.3 使用材料の許容応力評価条件

低圧炉心スプレイ系ポンプの使用材料の許容応力評価条件のうち設計基準対象施設の評価に用いるものを表 3-5 に、重大事故等対処設備の評価に用いるものを表 3-6 に示す。

表 3-1 荷重の組合せ及び許容応力状態（設計基準対象施設）

施設区分		機器名称	耐震設計上の 重要度分類	機器等の区分	荷重の組合せ	許容応力状態
原子炉冷却 系統施設	非常用炉心冷却設備 その他原子炉注水設備	低圧炉心スプレイ系 ポンプ	S	クラス 2 ポンプ*	$D + P_D + M_D + S_d^*$	Ⅲ _A S
					$D + P_D + M_D + S_s$	Ⅳ _A S

注記*：クラス 2 ポンプの支持構造物を含む。

表 3-2 荷重の組合せ及び許容応力状態（重大事故等対処設備）

施設区分		機器名称	設備分類* ¹	機器等の区分	荷重の組合せ	許容応力状態
原子炉冷却系 統施設	非常用炉心冷却設備 その他原子炉注水設備	低圧炉心スプレイ系 ポンプ	常設耐震 ／防止	重大事故等 クラス 2 ポンプ* ²	$D + P_D + M_D + S_s^{*3}$	Ⅳ _A S
					$D + P_{SAD} + M_{SAD} + S_{S_s}$	V _A S (V _A Sとし てⅣ _A Sの許 容限界を用い る。)

注記*1：「常設耐震／防止」は常設耐震重要重大事故防止設備を示す。

*2：重大事故等クラス 2 ポンプの支持構造物を含む。

*3：「 $D + P_{SAD} + M_{SAD} + S_{S_s}$ 」の評価に包絡されるため、評価結果の記載を省略する。

表 3-3 許容応力 (クラス 2, 3 ポンプ及び重大事故等クラス 2 ポンプ)

許容応力状態	許容限界*			
	一次一般膜応力	一次膜応力+ 一次曲げ応力	一次+二次応力	一次+二次+ ピーク応力
III _A S	S _y と0.6・S _u の小さい方 ただし、オーステナイト系ステンレス鋼及び高ニッケル合金については上記値と1.2・Sとの大きい方	左欄の1.5倍の値	弾性設計用地震動S _d 又は基準地震動S _s のみによる疲労解析を行い、疲労累積係数が1.0以下であること。 ただし、地震動のみによる一次+二次応力の変動値が2・S _y 以下であれば、疲労解析は行わない。	
IV _A S				
V _A S (V _A SとしてIV _A Sの許容限界を用いる。)	0.6・S _u	左欄の1.5倍の値	基準地震動S _s のみによる疲労解析を行い、疲労累積係数が1.0以下であること。 ただし、地震動のみによる一次+二次応力の変動値が2・S _y 以下であれば、疲労解析は行わない。	

注記 * : 当該の応力が生じない場合、規格基準で省略可能とされている場合及び代表可能である場合は評価を省略する。

表 3-4 許容応力 (クラス 2, 3 支持構造物及び重大事故等クラス 2 支持構造物)

許容応力状態	許容限界*1, *2 (ボルト等)	
	一次応力	
	引張り	せん断
Ⅲ _A S	$1.5 \cdot f_t$	$1.5 \cdot f_s$
Ⅳ _A S	$1.5 \cdot f_t^*$	$1.5 \cdot f_s^*$
V _A S (V _A SとしてⅣ _A Sの許容限界を用いる。)		

注記 *1: 応力の組合せが考えられる場合には, 組合せ応力に対しても評価を行う。

*2: 当該の応力が生じない場合, 規格基準で省略可能とされている場合及び他の応力で代表可能である場合は評価を省略する。

表 3-5 使用材料の許容応力評価条件 (設計基準対象施設)

評価部材	材料	温度条件 (°C)		S _y (MPa)	S _u (MPa)	S _y (R T) (MPa)
バレルケーシング		最高使用温度	100	194	373	—
コラムパイプ		最高使用温度	100	194	373	—
基礎ボルト		周囲環境温度		206	385	—
ポンプ取付ボルト		最高使用温度	100	685	847	—
原動機台取付ボルト		最高使用温度	100	194	373	—
原動機取付ボルト		周囲環境温度		206	385	—

表 3-6 使用材料の許容応力評価条件 (重大事故等対処設備)

評価部材	材料	温度条件 (°C)		S _y (MPa)	S _u (MPa)	S _y (R T) (MPa)
バレルケーシング		最高使用温度	148	181	373	—
コラムパイプ		最高使用温度	148	181	373	—
基礎ボルト		周囲環境温度	<input type="text"/>	206	385	—
ポンプ取付ボルト		最高使用温度	148	654	847	—
原動機台取付ボルト		最高使用温度	148	181	373	—
原動機取付ボルト		周囲環境温度	<input type="text"/>	206	385	—

3.3 解析モデル及び諸元

固有値解析及び構造強度評価に用いる解析モデル及び諸元は、本計算書の【低圧炉心スプレ
イ系ポンプの耐震性についての計算結果】のその他の機器要目に示す。解析コードは、「MSC
NASTRAN」を使用し、解析コードの検証及び妥当性確認等の概要については、「V-5-1
計算機プログラム（解析コード）の概要 MSC NASTRAN」に示す。

3.4 固有周期

固有値解析の結果を表 3-7 に、振動モード図を図 3-1 に示す。鉛直方向は、3 次モード以
降で卓越し、固有周期は 0.05 秒以下であり剛であることを確認した。

表 3-7 固有値解析結果

モード	固有周期 (s)	卓越方向	刺激係数	
			X	Y
1次	0.086	水平	1.206	0.000
2次	0.045	水平	—	—

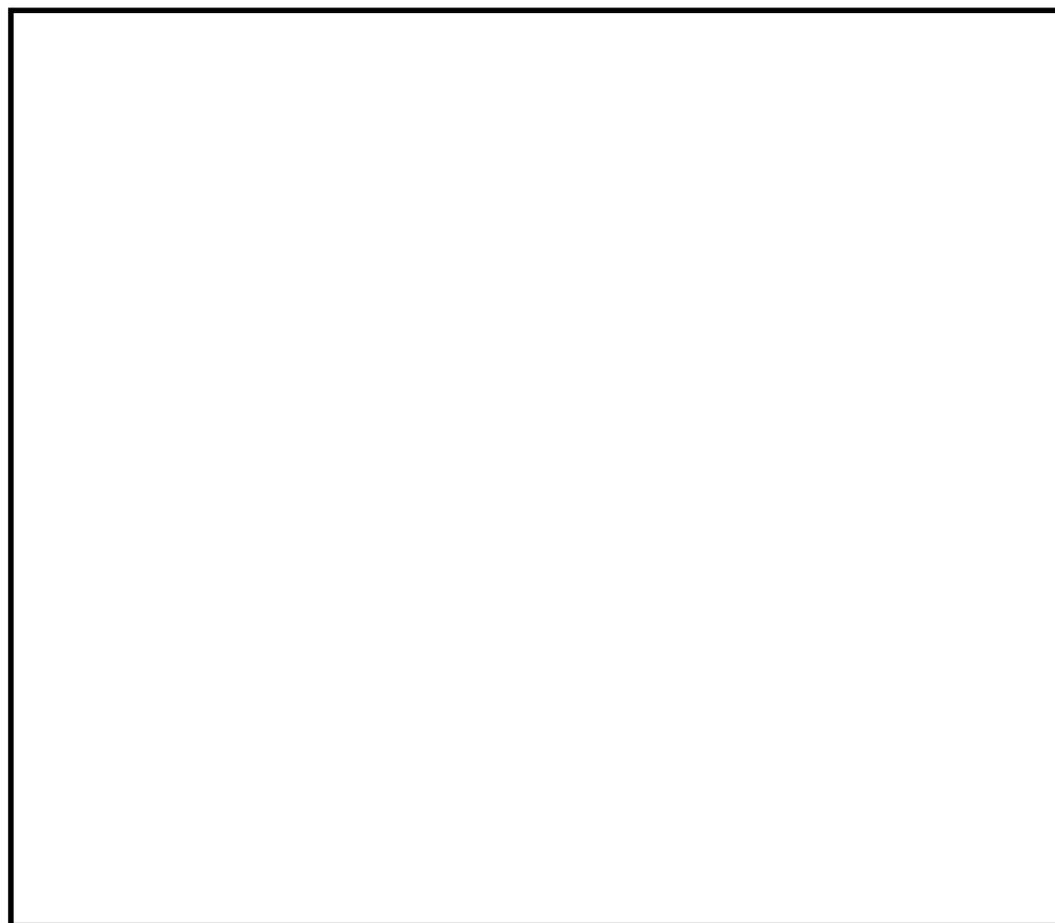


図 3-1 振動モード（1 次モード 水平方向 0.086 s）

3.5 設計用地震力

評価に用いる設計用地震力を表3-8に示す。

「弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度」及び「基準地震動 S_s 」による地震力は、「V-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針」に基づく。また、減衰定数は「V-2-1-6 地震応答解析の基本方針」に記載の減衰定数を用いる。

表 3-8 設計用地震力

据付場所 及び 床面高さ (m)	固有周期(s)		弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度		基準地震動 S_s		減衰定数 (%)	
	水平 方向	鉛直 方向	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	水平	鉛直
原子炉建屋 EL. -4.0 ^{*1}	0.086	0.05 以下 ^{*2}	$C_H=0.58$ 又は ^{*3}	$C_V=0.48$	$C_H=0.87$ 又は ^{*4}	$C_V=0.90$	1.0	—

注記 *1：基準床レベルを示す。

*2：固有値解析より、0.05秒以下であり剛であることを確認した。

*3：弾性設計用地震動 S_d に基づく設備評価用床応答曲線より得られる値。

*4：基準地震動 S_s に基づく設備評価用床応答曲線より得られる値。

4. 機能維持評価

4.1 動的機能維持評価方法

低圧炉心スプレイ系ポンプの地震後の動的機能維持評価について、以下に示す。

低圧炉心スプレイ系ポンプは地震時動的機能維持が確認された機種と類似の構造及び振動特性であるため、「V-2-1-9 機能維持の基本方針」に記載の機能確認済加速度を適用する。機能確認済加速度を表 4-1 に示す。

表 4-1 機能確認済加速度 ($\times 9.8 \text{ m/s}^2$)

評価部位	形式	方向	機能確認済加速度
ポンプ	ピットバレル形 ポンプ	水平	10.0
		鉛直	1.0
原動機	立形ころがり 軸受電動機	水平	2.5
		鉛直	1.0

5. 評価結果

5.1 設計基準対象施設としての評価結果

低圧炉心スプレイ系ポンプの設計基準対象施設としての耐震評価結果を以下に示す。発生値は許容限界を満足しており，設計用地震力に対して十分な構造強度及び動的機能を有していることを確認した。

(1) 構造強度評価結果

構造強度評価の結果を次頁以降の表に示す。

(2) 機能維持評価結果

動的機能維持評価の結果を次頁以降の表に示す。

5.2 重大事故等対処設備としての評価結果

低圧炉心スプレイ系ポンプの重大事故等時の状態を考慮した場合の耐震評価結果を以下に示す。発生値は許容限界を満足しており，設計用地震力に対して十分な構造強度及び動的機能を有していることを確認した。

(1) 構造強度評価結果

構造強度評価の結果を次頁以降の表に示す。

(2) 機能維持評価結果

動的機能維持評価の結果を次頁以降の表に示す。

【低圧炉心スプレイ系ポンプの耐震性についての計算結果】

1. 設計基準対象施設

1.1 設計条件

機器名称	耐震設計上の重要度分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期 (s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s		ポンプ振動による震度	最高使用温度 (°C)	周囲環境温度 (°C)	最高使用圧力 (MPa)	
			水平方向	水平方向	水平方向設計震度	鉛直方向設計震度	水平方向設計震度	鉛直方向設計震度				吸込側	吐出側
低圧炉心スプレイ系ポンプ	S	原子炉建屋 EL. -4.0*1	0.086	0.05 以下*2	C _H =0.58 又は*3	C _V =0.48	C _H =0.87 又は*4	C _V =0.90	C _p =0.05	100	<input type="text"/>	0.76	3.97

注記*1：基準床レベルを示す。

*2：固有値解析より、0.05秒以下であり剛であることを確認した。

*3：弾性設計用地震動 S_d に基づく設備評価用床応答曲線より得られる値。

*4：基準地震動 S_s に基づく設備評価用床応答曲線より得られる値。

1.2 機器要目

(1) ボルト

部材	m _i (kg)	D _i (mm)	A _{b i} (mm ²)	n _i	n _{f i}	M _p (N・mm)	S _{y i} (MPa)	S _{u i} (MPa)	F _i (MPa)	F _i * (MPa)
基礎ボルト (i=1)	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	8	8	—	206*2	385*2	206	247
ポンプ取付ボルト (i=2)				40	40	1.194×10 ⁷	685*1	847*1	592	592
原動機台取付ボルト (i=3)				8	8	1.194×10 ⁷	194*1	373*1	194	232
原動機取付ボルト (i=4)				8	8	1.194×10 ⁷	206*2	385*2	206	247

注記*1：最高使用温度で算出

*2：周囲環境温度で算出

(2) パレルケーシング, コラムパイプ

部材	S (MPa)	S _y (MPa)	S _u (MPa)	D _c (mm)	t (mm)
パレルケーシング	—	194*1	373*1	1072.0	14.0
コラムパイプ	—	194*1	373*1	363.6	28.0

注記 *1：最高使用温度で算出

予想最大両振幅 (μm)	回転速度 (min ⁻¹)
H _p = <input type="text"/>	N = <input type="text"/>

1.3 計算数値

(1) ボルトに作用する力

部 材	M _i (N・mm)		F _{b i} (N)		Q _{b i} (N)	
	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s
基礎ボルト (i=1)						
ポンプ取付ボルト (i=2)						
原動機台取付ボルト (i=3)						
原動機取付ボルト (i=4)						

(2) バレルケーシング, コラムパイプに作用する力

部材	M (N・mm)	
	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s
バレルケーシング		
コラムパイプ		

1.4 結論

1.4.1 固有周期

モード	固有周期 (S)	卓越方向
1次	0.086	水平

1.4.2 ボルトの応力

(単位: MPa)

部 材	材 料	応 力	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s	
			算出応力	許容応力	算出応力	許容応力
基礎ボルト		引張り	—	$f_{t s 1}=154^*$	$\sigma_{b 1}=12$	$f_{t s 1}=185^*$
		せん断	$\tau_{b 1}=9$	$f_{s b 1}=119$	$\tau_{b 1}=12$	$f_{s b 1}=142$
ポンプ取付ボルト		引張り	$\sigma_{b 2}=3$	$f_{t s 2}=444^*$	$\sigma_{b 2}=9$	$f_{t s 2}=444^*$
		せん断	$\tau_{b 2}=4$	$f_{s b 2}=342$	$\tau_{b 2}=5$	$f_{s b 2}=342$
原動機台取付ボルト		引張り	$\sigma_{b 3}=13$	$f_{t s 3}=145^*$	$\sigma_{b 3}=29$	$f_{t s 3}=174^*$
		せん断	$\tau_{b 3}=9$	$f_{s b 3}=112$	$\tau_{b 3}=13$	$f_{s b 3}=134$
原動機取付ボルト		引張り	$\sigma_{b 4}=7$	$f_{t s 4}=154^*$	$\sigma_{b 4}=20$	$f_{t s 4}=185^*$
		せん断	$\tau_{b 4}=9$	$f_{s b 4}=119$	$\tau_{b 4}=11$	$f_{s b 4}=142$

すべて許容応力以下である。

注記*: $f_{t s i} = \text{Min}[1.4 \cdot f_{t o i} - 1.6 \cdot \tau_{b i}, f_{t o i}]$ より算出

1.4.3 バレルケーシング, コラムパイプの応力

(単位: MPa)

部 材	材 料		一次一般膜応力	
			算出応力	許容応力
バレルケーシング		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	29	194
		基準地震動 S _s	29	223
コラムパイプ		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	27	194
		基準地震動 S _s	34	223

すべて許容応力以下である。

1.4.4 動的機能の評価結果

(×9.8 m/s²)

		評価用加速度	機能確認済加速度
ポンプ	水平方向	0.72*	10.0
	鉛直方向	0.75*	1.0
原動機	水平方向	0.72*	2.5
	鉛直方向	0.75*	1.0

評価用加速度はすべて機能確認済加速度以下である。注記*: 評価用加速度は1.0ZPA

1.5 その他の機器要目

(1) 節点データ

節点番号	節点座標 (mm)		
	x	y	z
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			
33			
34			
35			
36			
37			
38			
39			
40			
41			
42			
43			
44			
45			
46			
47			
48			
49			

NT2 補③ V-2-5-5-2-1 R0

(続き)

節点番号	節点座標 (mm)		
	X	Y	Z
50			
51			
52			
53			
54			
55			
56			
57			
58			
59			
60			
61			
62			
63			
64			
65			
66			
67			
68			
69			
70			
71			
72			
73			
74			
75			
76			
77			
78			
79			
80			
81			
82			
83			
84			
85			
86			
87			

NT2 補③ V -2-5-5-2-1 R0

(2) 要素の断面性状

断面特性番号 (要素番号)	要素両端の節点 番号	材料 番号	断面積 (mm ²)	断面二次 モーメント (mm ⁴)	断面二次 極モーメント (mm ⁴)
1	1-2	1		1.886×10 ⁷	3.771×10 ⁷
2	2-3	1		1.886×10 ⁷	3.771×10 ⁷
3	3-4	1		1.886×10 ⁷	3.771×10 ⁷
4	4-5	1		1.886×10 ⁷	3.771×10 ⁷
5	5-6	1		1.886×10 ⁷	3.771×10 ⁷
6	6-7	1		1.886×10 ⁷	3.771×10 ⁷
7	7-8	1		1.886×10 ⁷	3.771×10 ⁷
8	8-9	1		1.886×10 ⁷	3.771×10 ⁷
9	9-10	1		1.886×10 ⁷	3.771×10 ⁷
10	10-11	1		1.886×10 ⁷	3.771×10 ⁷
11	11-12	1		1.886×10 ⁷	3.771×10 ⁷
12	12-13	1		1.886×10 ⁷	3.771×10 ⁷
13	13-14	1		1.886×10 ⁷	3.771×10 ⁷
14	14-15	1		1.886×10 ⁷	3.771×10 ⁷
15	15-16	1		1.886×10 ⁷	3.771×10 ⁷
16	16-17	1		1.886×10 ⁷	3.771×10 ⁷
17	17-18	1		1.886×10 ⁷	3.771×10 ⁷
18	18-19	1		1.886×10 ⁷	3.771×10 ⁷
19	19-20	1		6.397×10 ⁷	1.279×10 ⁸
20	20-21	1		2.833×10 ⁷	5.667×10 ⁷
21	21-22	1		2.833×10 ⁷	5.667×10 ⁷
22	22-23	1		2.833×10 ⁷	5.667×10 ⁷
23	23-24	1		3.217×10 ⁷	6.434×10 ⁷
24	24-25	1		3.217×10 ⁷	6.434×10 ⁷
25	25-26	4		3.230×10 ⁸	6.459×10 ⁸
26	26-27	6		1.886×10 ⁷	3.771×10 ⁷
27	27-28	6		5.153×10 ⁷	1.031×10 ⁸
28	28-29	6		1.018×10 ⁷	2.036×10 ⁷
29	30-31	2		1.971×10 ⁸	3.943×10 ⁸
30	31-32	2		1.807×10 ⁹	3.614×10 ⁹
31	32-33	2		1.807×10 ⁹	3.614×10 ⁹
32	33-34	2		1.807×10 ⁹	3.614×10 ⁹
33	34-35	2		1.807×10 ⁹	3.614×10 ⁹
34	35-36	2		1.807×10 ⁹	3.614×10 ⁹
35	36-37	2		1.807×10 ⁹	3.614×10 ⁹
36	37-38	2		1.807×10 ⁹	3.614×10 ⁹
37	38-39	2		1.807×10 ⁹	3.614×10 ⁹
38	39-40	2		1.807×10 ⁹	3.614×10 ⁹
39	40-41	2		1.807×10 ⁹	3.614×10 ⁹
40	41-42	2		1.807×10 ⁹	3.614×10 ⁹
41	42-43	2		1.807×10 ⁹	3.614×10 ⁹
42	43-44	2		1.807×10 ⁹	3.614×10 ⁹
43	44-45	2		1.807×10 ⁹	3.614×10 ⁹
44	45-46	2		1.807×10 ⁹	3.614×10 ⁹
45	46-47	2		1.807×10 ⁹	3.614×10 ⁹
46	47-48	2		1.807×10 ⁹	3.614×10 ⁹
47	48-49	2		1.807×10 ⁹	3.614×10 ⁹
48	49-50	3		6.637×10 ⁸	1.327×10 ⁹
49	50-51	3		6.637×10 ⁸	1.327×10 ⁹

NT2 補③ V-2-5-5-2-1 R0

(続き)

断面特性番号 (要素番号)	要素両端の節点 番号	材料 番号	断面積 (mm ²)	断面二次 モーメント (mm ⁴)	断面二次 極モーメント (mm ⁴)
50	51-52	3		6.637×10^8	1.327×10^9
51	52-53	3		6.637×10^8	1.327×10^9
52	53-54	3		2.650×10^8	5.299×10^8
53	53-83	3		6.637×10^8	1.327×10^9
54	55-56	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
55	56-57	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
56	57-58	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
57	58-59	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
58	59-60	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
59	60-61	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
60	61-62	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
61	62-63	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
62	63-64	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
63	64-65	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
64	65-66	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
65	66-67	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
66	67-68	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
67	68-69	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
68	69-70	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
69	70-71	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
70	71-72	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
71	72-73	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
72	73-74	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
73	74-75	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
74	75-76	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
75	76-77	3		8.019×10^9	1.604×10^{10}
76	77-78	3		1.665×10^{10}	3.329×10^{10}
77	79-80	5		2.478×10^{12}	4.956×10^{12}
78	80-81	3		5.625×10^{11}	1.125×10^{12}
79	81-82	3		3.047×10^{10}	6.093×10^{10}
80	82-83	3		3.047×10^{10}	6.093×10^{10}
81	83-84	5		2.198×10^{10}	4.396×10^{10}
82	84-85	6		9.513×10^9	1.903×10^{10}
83	85-86	6		9.513×10^9	1.903×10^{10}
84	86-87	6		1.293×10^{10}	2.587×10^{10}

(3) ばね結合部の指定

ばねの両端の節点番号		ばね定数
2	32	
4	34	
6	36	
8	38	
10	40	
12	42	
14	44	
16	46	
18	48	
24	54	
27	85	
28	86	
31	58	
28	86	
78	80	
78	80	

(4) 節点の質量

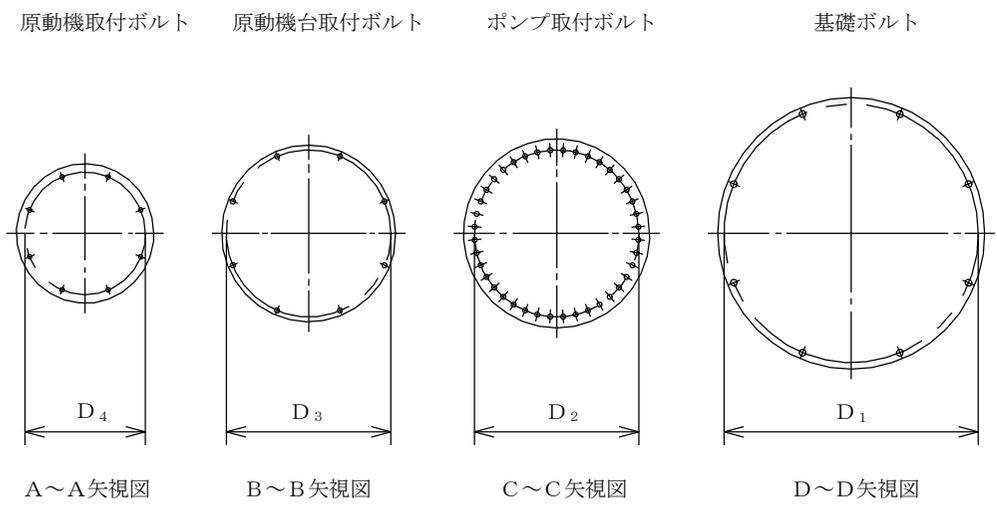
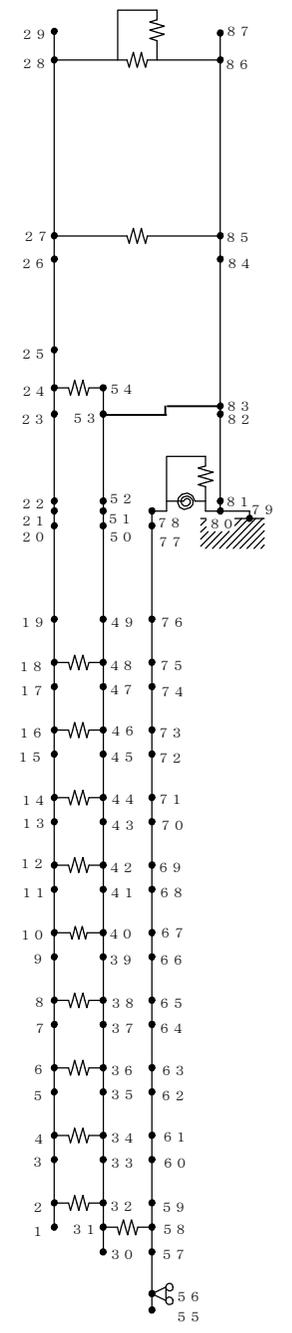
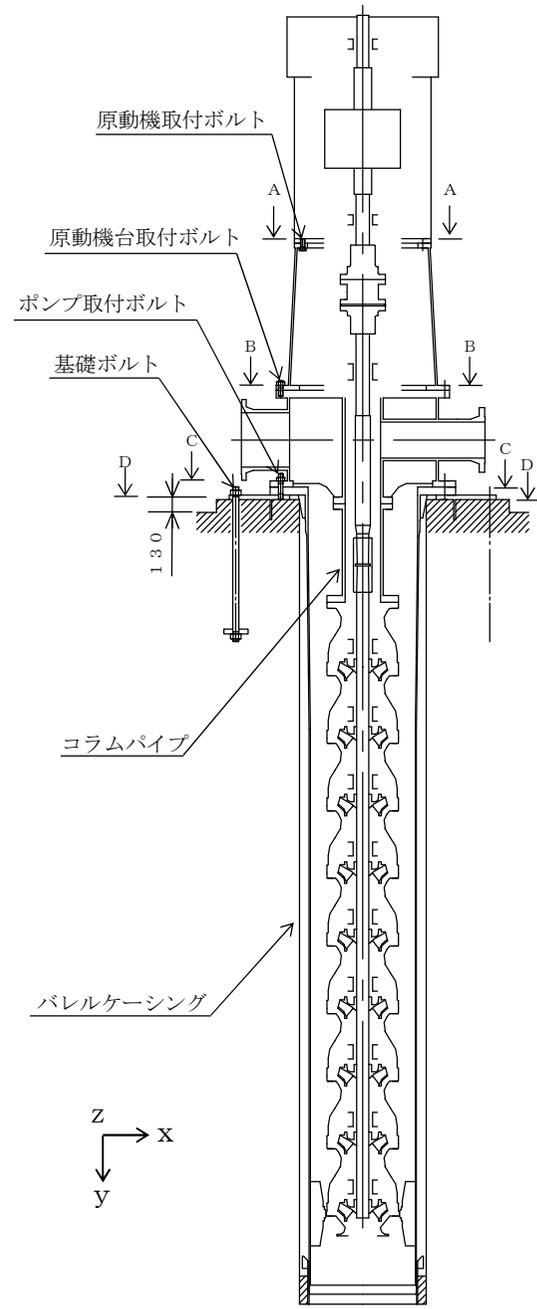
節点番号	質量 (kg)
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	
31	
32	
33	
34	
35	
36	
37	
38	
39	
40	
41	
42	
43	
44	
45	
46	
47	
48	
49	

(続き)

節点番号	質量 (kg)
50	
51	
52	
53	
54	
55	
56	
57	
58	
59	
60	
61	
62	
63	
64	
65	
66	
67	
68	
69	
70	
71	
72	
73	
74	
75	
76	
77	
78	
79	
80	
81	
82	
83	
84	
85	
86	
87	

(5) 材料物性値

材料番号	温度 (°C)	縦弾性係数 (MPa)	質量密度 (kg/mm ³)	ポアソン比 (-)	材 質	部 位
1	100	1.96×10^5		0.3		ポンプ
2	100	1.97×10^5		0.3		ポンプ
3	100	1.98×10^5		0.3		ポンプ
4		1.99×10^5		0.3		原動機
5		2.00×10^5		0.3		原動機
6		1.99×10^5		0.3		原動機



2. 重大事故対処施設

2.1 設計条件

機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期 (s)		弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度		基準地震動 S_s		ポンプ振動による震度	最高使用温度 (°C)	周囲環境温度 (°C)	最高使用圧力 (MPa)	
			水平方向	鉛直方向	水平方向設計震度	鉛直方向設計震度	水平方向設計震度	鉛直方向設計震度				吸込側	吐出側
低圧炉心スプレイ系ポンプ	常設/防止	原子炉建屋 EL. -4.0*1	0.086	0.05 以下*2	—	—	$C_H=0.87$ 又は*3	$C_V=0.90$	$C_p=0.05$	148	<input type="text"/>	0.76	3.97

注記*1: 基準床レベルを示す。

*2: 固有値解析より, 0.05 秒以下であり剛であることを確認した。

*3: 基準地震動 S_s に基づく設備評価用床応答曲線より得られる値

2.2 機器要目

(1) ボルト

部材	m_i (kg)	D_i (mm)	A_{b_i} (mm ²)	n_i	n_{f_i}	M_p (N・mm)	S_{y_i} (MPa)	S_{u_i} (MPa)	F_i (MPa)	F_i^* (MPa)
基礎ボルト (i=1)	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	8	8	—	206*2	385*2	—	247
ポンプ取付ボルト (i=2)				40	40	1.194×10^7	654*1	847*1	—	592
原動機台取付ボルト (i=3)				8	8	1.194×10^7	181*1	373*1	—	217
原動機取付ボルト (i=4)				8	8	1.194×10^7	206*2	385*2	—	247

注記*1: 最高使用温度で算出

*2: 周囲環境温度で算出

(2) パレルケーシング, コラムパイプ

部材	S (MPa)	S_y (MPa)	S_u (MPa)	D_c (mm)	t (mm)
パレルケーシング	—	181*1	373	1072.0	14.0
コラムパイプ	—	181*1	373	363.6	28.0

注記 *1: 最高使用温度で算出

予想最大両振幅 (μm)	回転速度 (min ⁻¹)
H _p = <input type="text"/>	N = <input type="text"/>

2.3 計算数値

(1) ボルトに作用する力

部 材	M _i (N・mm)		F _{b i} (N)		Q _{b i} (N)	
	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s
基礎ボルト (i=1)	-		-		-	
ポンプ取付ボルト (i=2)	-		-		-	
原動機台取付ボルト (i=3)	-		-		-	
原動機取付ボルト (i=4)	-		-		-	

(2) バレルケーシング, コラムパイプに作用する力

部材	M (N・mm)	
	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s
バレルケーシング	-	
コラムパイプ	-	

2.4 結論

2.4.1 固有周期

(単位: s)

モード	固有周期	卓越方向
1次	0.086	水平

2.4.2 ボルトの応力

(単位: MPa)

部 材	材 料	応 力	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s	
			算出応力	許容応力	算出応力	許容応力
基礎ボルト		引張り	-	-	$\sigma_{b1}=12$	$f_{ts1}=185^*$
		せん断	-	-	$\tau_{b1}=12$	$f_{sb1}=142$
ポンプ取付ボルト		引張り	-	-	$\sigma_{b2}=9$	$f_{ts2}=444^*$
		せん断	-	-	$\tau_{b2}=5$	$f_{sb2}=342$
原動機台取付ボルト		引張り	-	-	$\sigma_{b3}=29$	$f_{ts3}=163^*$
		せん断	-	-	$\tau_{b3}=13$	$f_{sb3}=125$
原動機取付ボルト		引張り	-	-	$\sigma_{b4}=20$	$f_{ts4}=185^*$
		せん断	-	-	$\tau_{b4}=11$	$f_{sb4}=142$

すべて許容応力以下である。 注記*: $f_{tsi} = \text{Min}[1.4 \cdot f_{toi} - 1.6 \cdot \tau_{bi}, f_{toi}]$ より算出

2.4.3 バレルケーシング, コラムパイプの応力

(単位: MPa)

部 材	材 料		一次一般膜応力	
			算出応力	許容応力
バレルケーシング		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	-	-
		基準地震動 S _s	29	223
コラムパイプ		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	-	-
		基準地震動 S _s	34	223

すべて許容応力以下である。

2.4.4 動的機能の評価結果

(単位: $\times 9.8 \text{ m/s}^2$)

		評価用加速度	機能確認済加速度
ポンプ	水平方向	0.72*	10.0
	鉛直方向	0.75*	1.0
原動機	水平方向	0.72*	2.5
	鉛直方向	0.75*	1.0

評価用加速度はすべて機能確認済加速度以下である。 注記*: 評価用加速度は 1.0ZPA

2.5 その他の機器要目

(1) 節点データ

節点番号	節点座標 (mm)		
	X	Y	Z
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			
33			
34			
35			
36			
37			
38			
39			
40			
41			
42			
43			
44			
45			
46			
47			
48			
49			

(続き)

節点番号	節点座標 (mm)		
	x	y	z
50			
51			
52			
53			
54			
55			
56			
57			
58			
59			
60			
61			
62			
63			
64			
65			
66			
67			
68			
69			
70			
71			
72			
73			
74			
75			
76			
77			
78			
79			
80			
81			
82			
83			
84			
85			
86			
87			

NT2 補③ V -2-5-5-2-1 R0

(2) 要素の断面性状

断面特性番号 (要素番号)	要素両端の節点 番号	材料 番号	断面積 (mm ²)	断面二次 モーメント (mm ⁴)	断面二次 極モーメント (mm ⁴)
1	1-2	1		1.886×10^7	3.771×10^7
2	2-3	1		1.886×10^7	3.771×10^7
3	3-4	1		1.886×10^7	3.771×10^7
4	4-5	1		1.886×10^7	3.771×10^7
5	5-6	1		1.886×10^7	3.771×10^7
6	6-7	1		1.886×10^7	3.771×10^7
7	7-8	1		1.886×10^7	3.771×10^7
8	8-9	1		1.886×10^7	3.771×10^7
9	9-10	1		1.886×10^7	3.771×10^7
10	10-11	1		1.886×10^7	3.771×10^7
11	11-12	1		1.886×10^7	3.771×10^7
12	12-13	1		1.886×10^7	3.771×10^7
13	13-14	1		1.886×10^7	3.771×10^7
14	14-15	1		1.886×10^7	3.771×10^7
15	15-16	1		1.886×10^7	3.771×10^7
16	16-17	1		1.886×10^7	3.771×10^7
17	17-18	1		1.886×10^7	3.771×10^7
18	18-19	1		1.886×10^7	3.771×10^7
19	19-20	1		6.397×10^7	1.279×10^8
20	20-21	1		2.833×10^7	5.667×10^7
21	21-22	1		2.833×10^7	5.667×10^7
22	22-23	1		2.833×10^7	5.667×10^7
23	23-24	1		3.217×10^7	6.434×10^7
24	24-25	1		3.217×10^7	6.434×10^7
25	25-26	4		3.230×10^8	6.459×10^8
26	26-27	6		1.886×10^7	3.771×10^7
27	27-28	6		5.153×10^7	1.031×10^8
28	28-29	6		1.018×10^7	2.036×10^7
29	30-31	2		1.971×10^8	3.943×10^8
30	31-32	2		1.807×10^9	3.614×10^9
31	32-33	2		1.807×10^9	3.614×10^9
32	33-34	2		1.807×10^9	3.614×10^9
33	34-35	2		1.807×10^9	3.614×10^9
34	35-36	2		1.807×10^9	3.614×10^9
35	36-37	2		1.807×10^9	3.614×10^9
36	37-38	2		1.807×10^9	3.614×10^9
37	38-39	2		1.807×10^9	3.614×10^9
38	39-40	2		1.807×10^9	3.614×10^9
39	40-41	2		1.807×10^9	3.614×10^9
40	41-42	2		1.807×10^9	3.614×10^9
41	42-43	2		1.807×10^9	3.614×10^9
42	43-44	2		1.807×10^9	3.614×10^9
43	44-45	2		1.807×10^9	3.614×10^9
44	45-46	2		1.807×10^9	3.614×10^9
45	46-47	2		1.807×10^9	3.614×10^9
46	47-48	2		1.807×10^9	3.614×10^9
47	48-49	2		1.807×10^9	3.614×10^9
48	49-50	3		6.637×10^8	1.327×10^9
49	50-51	3		6.637×10^8	1.327×10^9

(続き)

断面特性番号 (要素番号)	要素両端の節点 番号	材料 番号	断面積 (mm ²)	断面二次 モーメント (mm ⁴)	断面二次 極モーメント (mm ⁴)
50	51-52	3		6.637×10^8	1.327×10^9
51	52-53	3		6.637×10^8	1.327×10^9
52	53-54	3		2.650×10^8	5.299×10^8
53	53-83	3		6.637×10^8	1.327×10^9
54	55-56	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
55	56-57	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
56	57-58	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
57	58-59	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
58	59-60	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
59	60-61	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
60	61-62	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
61	62-63	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
62	63-64	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
63	64-65	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
64	65-66	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
65	66-67	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
66	67-68	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
67	68-69	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
68	69-70	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
69	70-71	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
70	71-72	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
71	72-73	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
72	73-74	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
73	74-75	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
74	75-76	3		7.043×10^9	1.409×10^{10}
75	76-77	3		8.019×10^9	1.604×10^{10}
76	77-78	3		1.665×10^{10}	3.329×10^{10}
77	79-80	5		2.478×10^{12}	4.956×10^{12}
78	80-81	3		5.625×10^{11}	1.125×10^{12}
79	81-82	3		3.047×10^{10}	6.093×10^{10}
80	82-83	3		3.047×10^{10}	6.093×10^{10}
81	83-84	5		2.198×10^{10}	4.396×10^{10}
82	84-85	6		9.513×10^9	1.903×10^{10}
83	85-86	6		9.513×10^9	1.903×10^{10}
84	86-87	6		1.293×10^{10}	2.587×10^{10}

(3) ばね結合部の指定

ばねの両端の節点番号		ばね定数
2	32	
4	34	
6	36	
8	38	
10	40	
12	42	
14	44	
16	46	
18	48	
24	54	
27	85	
28	86	
31	58	
28	86	
78	80	
78	80	

(4) 節点の質量

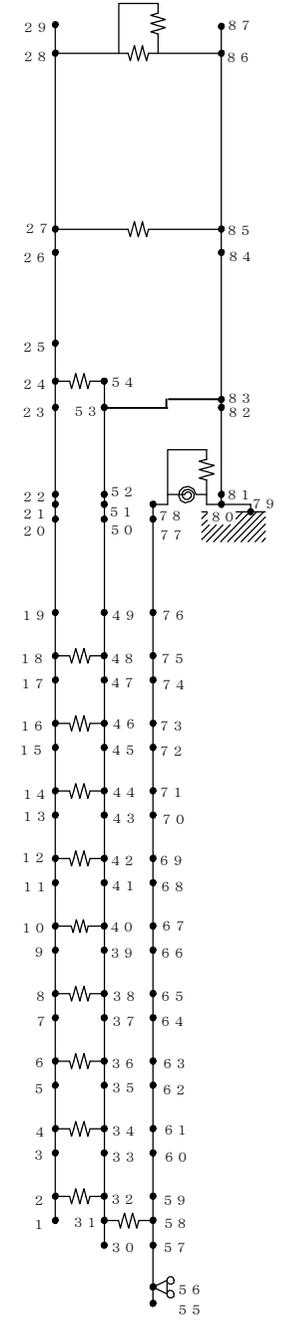
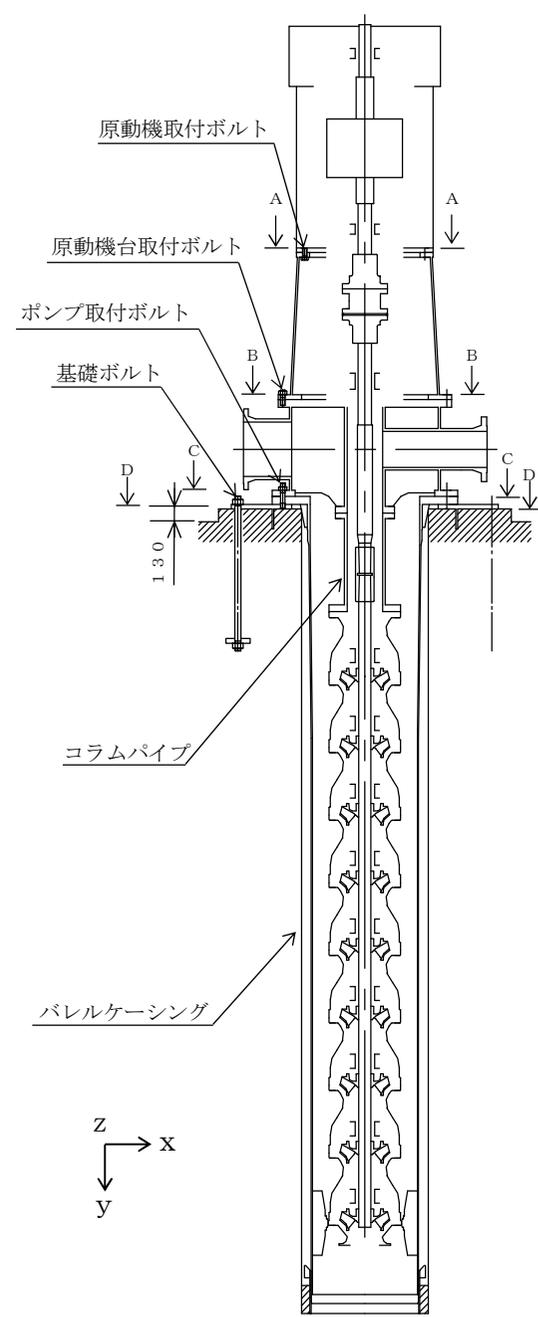
節点番号	質量 (kg)
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	
31	
32	
33	
34	
35	
36	
37	
38	
39	
40	
41	
42	
43	
44	
45	
46	
47	
48	
49	

(続き)

節点番号	質量 (kg)
50	
51	
52	
53	
54	
55	
56	
57	
58	
59	
60	
61	
62	
63	
64	
65	
66	
67	
68	
69	
70	
71	
72	
73	
74	
75	
76	
77	
78	
79	
80	
81	
82	
83	
84	
85	
86	
87	

(5) 材料物性値

材料番号	温度 (°C)	縦弾性係数 (MPa)	質量密度 (kg/mm ³)	ポアソン比 (-)	材 質	部 位
1	100	1.96×10 ⁵		0.3		ポンプ
2	100	1.97×10 ⁵		0.3		ポンプ
3	100	1.98×10 ⁵		0.3		ポンプ
4		1.99×10 ⁵		0.3		原動機
5		2.00×10 ⁵		0.3		原動機
6		1.99×10 ⁵		0.3		原動機

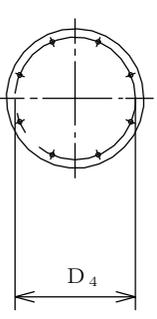


原動機取付ボルト

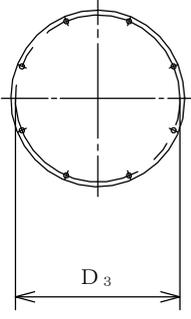
原動機台取付ボルト

ポンプ取付ボルト

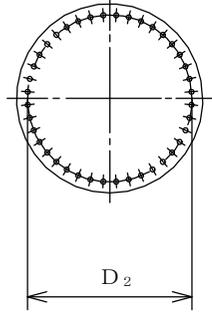
基礎ボルト



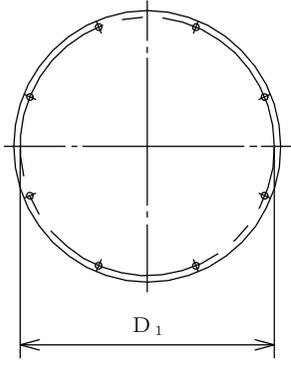
A~A 矢視図



B~B 矢視図



C~C 矢視図



D~D 矢視図

バレルケーシング

